

3 がんの治療

がんの治療には様々なものがあります。その主なものは手術と薬物療法（抗がん剤治療）、放射線治療です。病気の種類や状態によって異なりますので、詳細は担当医などにご相談してください。

●標準治療＝最も優れた治療 （手術・薬物療法・放射線治療）

標準治療と先進医療はよく比較されます。「先進」と「標準」という言葉を比べると、どうしても標準の方が劣っているように感じてしまいますが、標準治療というのは「現時点で最も効果が期待できる優れた治療法」の事です。

がん治療においては診療ガイドライン（推奨グレード）といい、がんの種類や進行度合いによって推奨される治療法が決まっています。その推奨グレードで最も高いグレードAにあたるものが標準治療です。世界中の治験実績やデータを元に、最もお勧めできる治療法がグレードAの治療ということになります。



●手術

手術とは身体にできた腫瘍などを切除する外科的な治療法のことをいいます。

がんに対する手術療法は、原発巣（おおもとの腫瘍）とその周囲のリンパ節を切除することが一般におこなわれています。また、胃や大腸といった消化管（食物の通り道）を切除する場合には、切除した後に通り道を再建することも必須となります。したがって単純に腫瘍を切除するだけではない、高度な技術が要求されます。

手術は患者さんの身体に加わる侵襲が大きく、出血や全身麻酔に伴うリスクもあります。したがって手術によるメリット（がんを治せる可能性など）が十分にあると判断された場合に初めて適応となります。そのような手術以外に、がんによる苦痛症状などを緩和するためにおこなう手術（姑息的手術といいます）もあります。

最近では「腹腔鏡手術」や「ロボット手術」などの手術方法そのものも進化しています。手術を受ける場合には、何のために受けるのか、どのような方法があるのか、どの程度のリスクがあるのか、といったことの説明を担当医から十分に受け、理解し納得した上で受けていただくことが重要です。



●薬物療法（抗がん剤治療）

薬物療法とは、抗がん剤、分子標的薬、ホルモン剤などによる治療をいいます。

抗がん剤は100種類近くあり、治療薬として使われています。がんを殺す能力を持つ抗がん剤、分子に作用してがん増殖を抑える分子標的薬、がんを殺す免疫を復活させる免疫チェックポイント阻害薬などがあり、単独ではなく複数の治療法と組み合わせて行われることもあります。

薬物療法は手術や放射線治療などの局所を治療する方法と違い、がん細胞だけでなく他の健康な細胞にも影響を及ぼすため全身に影響が出ることが多いとされます。治療を始める前に、治療期間や予想される副作用、日常生活の注意点などについて説明を受けましょう。副作用が現れたら、我慢せずに医師や看護師、薬剤師に相談しましょう。



がん種別薬物療法の目的

治療が期待できるもの
急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫（中・高悪性度）、胚細胞腫瘍、絨毛がんなど
症状緩和や延命が期待できるもの
軟部組織腫瘍、頭頸部がん、食道がん、子宮がん、非小細胞肺がん、胃がん、腎がん、膀胱がん、前立腺がん、肝がん、胆道がん、膵がん、脳腫瘍、甲状腺髄様がん、乳がん、卵巣がん、小細胞肺がん、大腸がん、多発性骨髄腫、慢性骨髄性白血病、非ホジキンリンパ腫（低悪性度）骨肉腫、悪性黒色腫など

●放射線治療

放射線治療は手術、薬物療法とともに重要な治療法です。がんの種類や腫瘍の性質によって治療法が選択されます。

副作用としては、全身の倦怠感、食欲低下、貧血、白血球減少、血小板減少、皮膚の変化などがあります。症状が現れた場合は、医師や看護師などにご相談ください。

がん種別放射線治療の目的

治療の目的	対象がん
治癒させることが目的の治療 抗がん剤と併用して行うことや術中・術後に照射することもあります	頭頸部がん・悪性リンパ腫・子宮頸がん・肺がん・食道がん・前立腺がん・皮膚がんなど
再発に対する治療	食道がん・肺がん・頭頸部がん・乳がんなど
骨髄移植の前に免疫力を落とすためや白血病などの再発を減らすための治療	白血病など
手術中にがん組織に放射線を照射する方法	膀胱がん・直腸がん
症状の緩和を目的としたもの 咳や痛みを和らげるためなど	種々のがん



●粒子線治療（重粒子線・陽子線）

粒子線治療とは、重粒子線や陽子線等をがんの病巣に照射して治療する、放射線治療の種類です。標的となるがん病巣に対して重粒子線や陽子線を集中して照射ができるため、がん細胞を死滅させる効果が高く、副作用がすくなくできます。重粒子線と陽子線の違いは、重粒子線の方が陽子線より集中して照射できる点です。

効果的ながんの種類としては、前立腺がん、頭頸部の腫瘍、肺がん、肝臓がんなどに現在のところ有効とされています。

しかし、保険適用がされている診察や検査、入院料、薬代以外の費用（重粒子線そのものの治療）は自由診療という保険外の治療になるため、高額な負担がかかります。九州では、鹿児島県や佐賀県に専門の治療施設があります。

平成28年4月から、骨軟部がん（切除非適応の骨軟部腫瘍）、平成30年4月から、前立腺がんと頭頸部がん（口腔・咽喉頭の扁平上皮がんを除く）、令和4年4月から肝細胞がん（長径4 cm以上）、肝内胆管がん、膵がん、大腸がんの骨盤内再発、子宮がん（頸部腺がん）について、公的医療保険が適用されます。

がん治療は高額な医療費がかかることがあります。このため、途中で治療の継続が難しくなられる方もおられます。治療を中断される前に、がん相談支援センターなどにご相談ください。

●免疫療法

免疫療法は、私たちの体の免疫を強めることにより、がん細胞を排除する治療法です。この治療法は近年注目されており研究が進められています。しかし残念ながらまだほとんどの免疫療法では有効性（治療効果）が証明されていません。

現在、効果が証明され、診療ガイドラインに記載されて標準治療となっている治療方法は、「がん細胞などが免疫にブレーキをかける仕組み」に働きかける免疫チェックポイント阻害薬などの一部の薬に限られています。

効果が証明されている免疫療法についてもすべての患者さんに効果があるわけではなく、一定の割合の患者さんにのみ効果があるということがわかっています。

副作用については、従来の化学療法に比べて少ないと報告されていますが個人差が大きく、いつ生じるか予測がつかないため注意が必要です。

また、思わぬ部位に副作用が出ることもありますので、免疫療法を受ける前に副作用についてよく確認し、いつもと違う症状を感じたら、医師や薬剤師、看護師にすぐに相談しましょう。

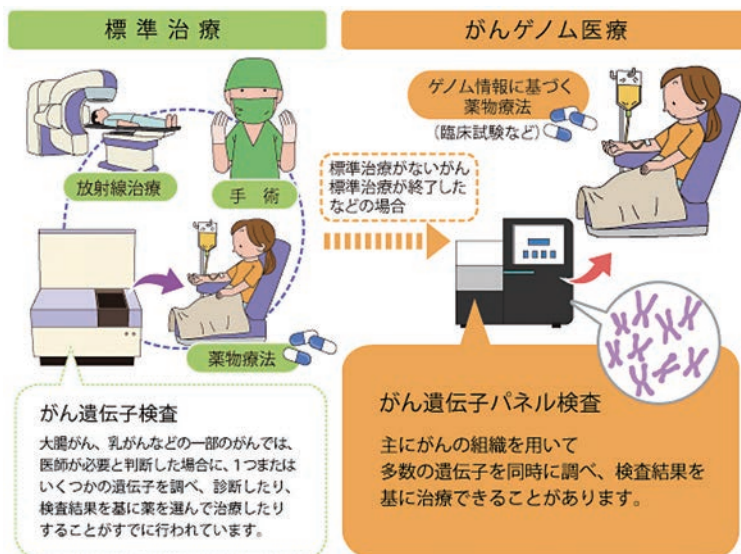
●がんゲノム医療

がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査」^(※1)によって、一人一人の遺伝子の変化や生まれ持った遺伝子の違い（遺伝子変異）を解析し、がんの性質を明らかにすることや体質や病状に合わせた治療などを行う医療です。

一部のがんの治療では、がんの組織などを用いて1つまたはいくつかの遺伝子を調べる「がん遺伝子検査」を行い、遺伝子の変化に対応した薬の選択が、標準治療としてすでに行われています。

一方、がんゲノム医療として、多数の遺伝子を同時に調べる検査である「がん遺伝子パネル検査」は、標準治療がないまたは終了したなどの条件を満たす場合に行われています。

(※1) がん遺伝子パネル検査は、合う薬があるかどうかを調べる検査です。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス『がんゲノム医療 もっと詳しく』

がんゲノム医療拠点病院

熊本大学病院	熊本市中央区本荘 1-1-1 がんゲノムセンター 096-373-5643
--------	---

患者さんからの直接予約は受け付けておりません。必ずかかりつけ医の医師（現在治療をお受けの医療機関）から、熊本大学病院がんゲノムセンターを通じて予約をしてもらいましょう。

がんゲノム医療連携病院

済生会熊本病院	熊本市南区近見 5-3-1 がんゲノムセンター 096-241-0200
---------	--

完全予約制です。患者さんから直接予約は受け付けておりません。必ずかかりつけ医から、済生会熊本病院がんゲノムセンターを通じて予約をもらいましょう。

●がんゲノム検査についてのお問い合わせ

がん診療連携拠点病院のがん相談支援センター（P.7～8）

【コラム1】他の治療法は？

治療法の中には、がんの場所や大きさ、進行度等によって適用できない場合もあります。また、補完代替療法を使用するときには、必ず主治医に相談し、自分にとって本当に必要なものか、慎重に検討しましょう。

● 温熱療法

温熱療法は、がん細胞が正常の細胞と比べて熱に弱いという性質を利用した治療法です。

全身を温める方法（全身温熱療法）と、がんやその近くを温める方法（局所温熱療法）があります。一般的には局所を電磁波やマイクロ波などを用いた装置で温めます。また、胆管など管腔内に器具を入れて温める方法やがん組織に電極を刺し温める方法もあります。単独で行われるより複数の治療法を組み合わせることが多いようです。国内で治療を行う装置の普及も増え、現在は全面保険適用になりました。がんの場所や進行度によっては適さないこともありますので治療法の選択については、担当医とよく相談して受けるようにしましょう。

● 補完代替療法

補完代替療法とは、がんの治療の目的で行われている治療法（手術、薬物療法、放射線療法など）を補ったり、その代わりに行う医療のことをいいます。

健康食品やサプリメント、鍼・灸、マッサージ療法、運動療法、心理療法、心身療法などがあります。しかし、補完代替療法はがんの進行を遅らせる、生存率を高めるという治療効果が科学的に証明されたものではありません。必ず担当医と相談のうえよく検討することが大切です。

● ラジオ波焼灼療法（RFA）

身体の外から特殊な針をがんに直接刺し、通電してその針の先端部分に高熱を発生させることで、局所的にがんを焼いて死滅させる治療法です。焼灼時間は10～20分程度です。

● 凍結療法

腫瘍に特殊な針を刺してがん細胞を凍らせ、細胞膜を破壊し、壊死させる治療法です。高齢や持病などの理由により手術が難しい場合に実施することがあります。

●セカンドオピニオン

セカンドオピニオンとは、治療の進行状況、治療の選択などについて、担当医とは別に、違う医療機関の医師に「第2の意見」を求めることです。担当医を替えたり、転院したり、治療を受けたりすることではありません。

セカンドオピニオンを受けることで、病気に対する理解が深まったり、別の治療法が提案された場合には治療の選択の幅が広がったりすることがあり、より納得して治療に臨むことができます。担当医が気を悪くされてはいけなと心配される方もいらっしゃいますが、セカンドオピニオンは、納得できる選択をするために大変有用な仕組みです。

●セカンドオピニオンを受ける場合

担当医の意見を十分に理解した上で、担当医にセカンドオピニオンを受けたいと考えていることを伝え、紹介状（診療情報提供書）、血液検査、病理診断記録、画像検査結果などを依頼します。

セカンドオピニオン先の病院には、その目的、病気の経過、質問事項などを整理し、メモしてから行きましょう。信頼できる人に同行してもらおうとよいでしょう。

セカンドオピニオンを受けたら、現在の担当医に報告した上で、これからの治療法について再度相談しましょう。

セカンドオピニオン外来を行っている病院、専門領域などの情報は、がん相談支援センターに聞くことができます。

〈セカンドオピニオンを受ける時の流れ〉

- ①担当医に診断と治療方針（ファーストオピニオン）を聞きましょう
- ②セカンドオピニオンを受けたいという希望を担当医に伝えて、紹介状を書いてもらいましょう
- ③希望の医療機関にセカンドオピニオンの申込みをしましょう
- ④事前に、聞きたいこと、ご自分の希望などをまとめておきましょう
- ⑤セカンドオピニオンの結果を担当医に報告して、今後のことを相談しましょう

※迷われた場合はがん相談支援センターに相談してみましょう。

がんに関するセカンドオピニオン問い合わせ先一覧表

	医療機関名受付窓口	セカンドオピニオン 受付時間	問い合わせ先	セカンドオピニオン料金 (報告書作成含む・税込)
熊本	熊本大学病院 地域医療連携センター	月～金 8:30-17:15	096-373-5676	1回 33,000円
	熊本市民病院 がん相談支援センター	月～金 8:30-17:00	096-365-1711	30分 7,850円 以降30分 7,850円
	熊本赤十字病院 医療社会事業課	月～金 8:30-17:00	096-384-2111	30分 11,000円 以降30分 11,000円 ※最長60分
	国立病院機構熊本医療センター 地域医療連携室	月～金 8:30-17:00	096-353-6501	30分 11,000円 以降30分 11,000円
	済生会熊本病院 地域医療連携室	月～金 8:30-17:00	096-351-8372	30分 11,000円 以降30分 11,000円 ※最長60分
	熊本中央病院 がん相談支援センター	月～金 9:00-16:00	096-370-3111	30分 11,000円 以降30分 11,000円
	熊本地域医療センター 地域医療連携室	月～金 9:00-17:00	096-363-3311	30分 5,500円 以降30分 5,500円 ※最長60分
	くまもと森都総合病院 セカンドオピニオン 相談窓口	月～金 8:30-17:00	096-364-6000	30分 11,000円 以降30分 11,000円 ※最長90分
	大腸肛門病センター高野病院 医療福祉課	月～金 9:00-17:00 土 9:00-12:00	096-320-6500	1回 5,500円 (診療を行った 場合は保険診療 内で負担)
有明	荒尾市立有明医療センター 相談支援センター	月～金 8:30-17:15	0968-63-1115	30分 7,840円 以降30分 7,840円
	くまもと県北病院 地域医療連携室・がん相談支援センター	月～金 8:30-17:15	0968-73-5000	30分 11,000円 以降30分 11,000円
鹿本	山鹿市民医療センター 地域医療連携室・がん相談支援センター	月～金 8:30-17:15	0968-44-2185	30分 6,050円 以降30分 3,300円
菊池	熊本再春医療センター がん相談支援センター	月～金 8:30-17:15	096-242-1000	30分 11,000円 以降30分 5,500円

	医療機関名受付窓口	セカンドオピニオン 受付時間	問い合わせ先	セカンドオピニオン料金 (報告書作成含む・税込)
天草	天草地域医療センター 医療・福祉連携室	月～金 8:30～17:30	0969-24-4111	30分 11,000円 以降30分 11,000円 ※最長60分
	天草中央総合病院 地域医療連携室	月～金 8:30～17:15	0969-22-0011	30分 5,500円 以降30分 5,500円
宇城	国立病院機構熊本南病院 地域医療連携室	月～金 8:30～17:15	0964-32-0826	60分 11,000円
八代	熊本労災病院 地域医療連携室	月～金 8:15～17:00	0965-33-4151	30分 7,500円 以降30分 7,500円
	熊本総合病院 地域医療連携室	月～金 9:00～17:00	0965-32-7111	相談無料
芦北	国保水保市立総合医療センター 地域医療支援センター	月～金 8:30～17:00	0966-63-2101	30分 7,700円 以降30分 7,700円
人吉	人吉医療センター 相談支援センター	月～金 8:30～17:00	0966-22-2191	60分 5,500円 以降30分 5,500円
阿蘇	阿蘇医療センター がん相談支援センター	月～金 8:30～17:15	0967-34-0311	30分 11,000円 以降30分 11,000円

※費用は、基本的に公的医療保険が適用されない自費診療で、病院によって異なります。

●がんの治療に伴う身体ケア

がんの治療を行うことにより、身体にも様々な変化が起きます。ここでは、がん治療後の身体をケアする方法についてご紹介いたします。

詳細なことは、がん相談支援センターにお尋ねください。

●がんリハビリテーション

能力を維持・向上させ、今までと変わらない生活を取り戻すことを支援することによって、生活の質（QOL：クオリティー・オブ・ライフ）の維持や向上を目的として行われます。がんのリハビリは、がんと診断されたときから、障害の予防や緩和、あるいは能力の回復や維持を目的に、あらゆる状況に応じて対応を行います。

・予防的リハビリテーション

がんと診断され様々な治療が開始される前から行われます
治療に伴い生じるであろう機能障害を予測し、その予防を目的に行われます

・回復的リハビリテーション

治療後に生じた機能や能力の低下を出来るだけ治療前の状態に近づけ日常生活の再獲得を目的として行います
医師の指示のもと治療後の早い段階から行われます

・維持的リハビリテーション

がんの進行に伴い生じる様々な機能や能力の低下に対して、その都度行われます
運動や動作のコツの指導、自助具や福祉用具に関する提案や動作指導が行われます



・緩和的リハビリテーション

ご本人の要望に合わせながら、疼痛や苦痛を緩和すること、動作の工夫によりA D L（日常生活動作）の維持を図ること、マッサージや会話を通して精神的な援助を行うことなどを目的に行われます

●リンパ浮腫ケア

リンパとは、人間の身体をめぐる水分で、心臓から血液として送り出された後、多くは血管の中を流れますが、残りはリンパ液として血管の網目からリンパ管に流れていきます。リンパ液はリンパ節から静脈に戻って心臓に帰っていきます。浮腫（むくみ）はリンパ液が増えることが原因です。リンパ液の流れが悪くて起こるむくみをリンパ浮腫といいます。

リンパ浮腫は生まれつきリンパ管の発達の悪い人や病気や治療でリンパ節が十分に働けない状態で起こります。多くは乳がんや婦人科がんの患者さんに起こります。

予防としては運動療法とスキンケアがあります。むくみが出やすいところを動かすなどして流れをよくします。スキンケアは皮膚が乾燥しないようにローションを使ったりします。浮腫がある場合は、弾性ストッキングを使用したり、リンパマッサージが有効ですが、どちらも専門の外来などに相談したうえで行いましょう。

●アピアランスケア（外見支援）

手術、薬物療法、放射線治療のために、手術の傷あと、脱毛、皮膚の変色、爪の変化など、身体の外見の変化をもたらすものがあり、患者さんにとって大きなストレスになります。

ストレスを軽減するために外見支援が行われています。

例えば、乳がんの治療の後の乳房の再建、脱毛に対するかつらの使用などがあり、専門の外来を設けているところもあります。インターネットやがん相談支援センターなどで詳細な情報を得ることができます。



医療用ウィッグ等についての助成制度がある自治体があります。

- ・大津町 健康保険課 健康推進係 096-294-1075
 - ・益城町 健康づくり推進課 096-286-3111 (代表)
 - ・南阿蘇村 健康推進課保健係 0967-67-2704
- 詳しくは各自治体担当課へお問い合わせください。

【コラム2】ヘルプカード知っていますか

内部障がいや難病の方、妊娠初期の方、がん患者など、外見からはわからなくても援助や配慮を必要としていることを知らせるために、熊本県ではヘルプカードを作成し必要としている方に配布しています。



お問い合わせ

熊本県健康福祉部 健康福祉政策課 地域支え合い支援室
096-333-2202

● 「私のカルテ」・「私のノート」・「私の日記」

熊本県では、いつでもどこでも質の高いがん治療を安心して受けていただくために、県内共通のがん診療連携パス「私のカルテ」、患者さんやご家族の治療や療養を手助けするための「私のノート」・「私の日記」を運用しています。

● 「私のカルテ」とは

がん診療連携拠点病院の専門医やかかりつけ医、保険薬局の薬剤師等が情報共有をすることで、患者さんがいつでもどこでも質の高いがん治療を受けられる為にお使いいただくものです。

身体症状等ご自身で記載する欄もありますが、主に医療者が診療の記録をするものです。患者さんが所持し、かかりつけの医療機関や保険薬局等の受診時に提示します。

がん診療連携拠点病院の医師が必要と判断したがん患者さんへ発行しています。



● 「私のノート」とは

主に在宅療養中において、往診や訪問看護等の在宅サービスを利用されている方にお使いいただくものです。患者さんやご家族、病院の医師や看護師、往診医、訪問看護師、ホームヘルパー、ケアマネジャー等が身体症状や日常生活支援に関することを自由に記載し、治療・療養について情報交換する交換日記のようなものです。

がん診療連携拠点病院の医師やかかりつけ医、在宅医等が重い病気の患者さんへ発行しています。



● 「私の日記」とは

患者さんの体調や病気、治療のこと、思い等を自由に記載して使う日記です。医療機関や保険薬局に提示していただくと、患者さんの状況を医療者へ伝え、十分な意思疎通をすることができます。

がん診療連携拠点病院等からご希望の患者さんへお渡しすることができます。



詳しくは、熊本県がん連携サポートセンター
(☎096-373-5764・5763)、がん診療連携拠点病院の
がん相談支援センターにお問い合わせください